

単元名

「陸上競技(リレー走)」

挑戦問題 『目指せ世界一のリレー！』

本単元で育成する資質・能力

挑戦・探究 協力・協働 思考・表現 情報収集・判断 知識・技能

期待される生徒の変容

リオ五輪男子400mリレーでの日本代表チームの活躍を知らせ、銀メダルを獲得した日本代表チームを誇りとし、お家芸であるバトンパスの向上に挑戦する。リオ五輪や自分達のリレーのビデオを見て、情報を収集しながら、バトンパスについて思考力・表現力の育成を図る。その中で意見を交わし仲間と協力・協働することでチーム力、バトンパス技能を磨き、助け合いながら全員で挑戦問題クリアに向けて取り組む挑戦・探究の資質・能力の向上が期待できる。

平成28年度の取組より

Before 【生徒の振り返りより】

- ・挑戦問題「2. 78秒を超えろ」を聞いて、「これ、無理」です。
- ・リレーは好きじゃないので、遅くなっても「アラー」という感じにしか思いません。
- ・1人1人の短距離走のベストタイムの合計より、リレーはバトンパスがあるので遅くなります。
- ・リレーはチーム全員が全力を出さないといけないから大変だなと思います。
- ・チームワークを大切にしながら、タイムを伸ばしていきたい。



After 【振り返り】

- ・リレーの学習で育った資質・能力は全てであると思う。その中でも一番は情報収集力です。私たちが走ったリレーを先生にビデオに撮ってもらって、それを見て分析すると、バトンパスがうまくいっていなかったもので、バトンを受けるときのスタートのタイミングを考える必要性を感じたのでそう思いました。
- ・リレーの学習で思考力・表現力がついたと思います。理由は日本代表選手のバトンパスを見て自分たちのバトンパスと何が違ったかとことと比較して考えました。例えば、「後ろを振り向かず走る」「相手が“はいっ”といったら手を出す」「バトンを渡す時にもう少し大きな声を出す」などです。
- ・私は協働的な態度が身についたと思います。「バトンパスを速くするためにはどうすればいいか」と自分たちのグループで話しあったり、兄弟チームからアドバイスをもらって、練習すると本当に速くなったので嬉しかったし、「こういうことは大切なんだな」と思いました。
- ・挑戦心・探求心の能力が高まったと思います。キャプテンということもあって、自分の中では挑戦問題「2. 78秒を超えろ」を意識し、アドバイスをもらったり、話し合ったりできたからです。
- ・うまくできなかった資質・能力もある。「思考力・表現力」だ。特に友達や先生にアドバイスしてもらったことをうまく実行できなかったところだ。しかし、次回もリレーがあれば今回のことを思い出して、2. 78秒の壁を超えるように頑張りたい。



平成29年度指導計画・ワークシートの改善のポイント

- ・平成28年度は、リレーのタイムを上げるためにバトンパスの受け渡し技術向上に着目をした。しかし実際取組んでみると、「渡す選手は次走者を追い越す」「受ける選手は前走者から逃げる」くらいの感覚で走る意識をもたせることが技術・タイミングの向上にもつながる一番の近道ではないかと考えた。そのことを考慮してワークシートを作成していく。
- ・「脚が速い～遅い」、「バトンパスの仕方について理解が高い～低い」をクロスして4つのタイプに分け、生徒のタイプの特徴を見分けながらすすめていくことも資質・能力を上げるための重要なポイントと考える。
- ・挑戦問題の達成ができなかったもので、挑戦問題を「超えろ2. 78秒」から「目指せ世界一のリレー」にし、知識・技能の評価基準を短距離走の4人のベストタイムの合計からリレーで2. 78秒（日本代表）速くなるとS、1. 62秒（ジャマイカ代表）速くなるとA、4人のベストの合計より速くなるとB、同タイムより遅ければCと修正する。